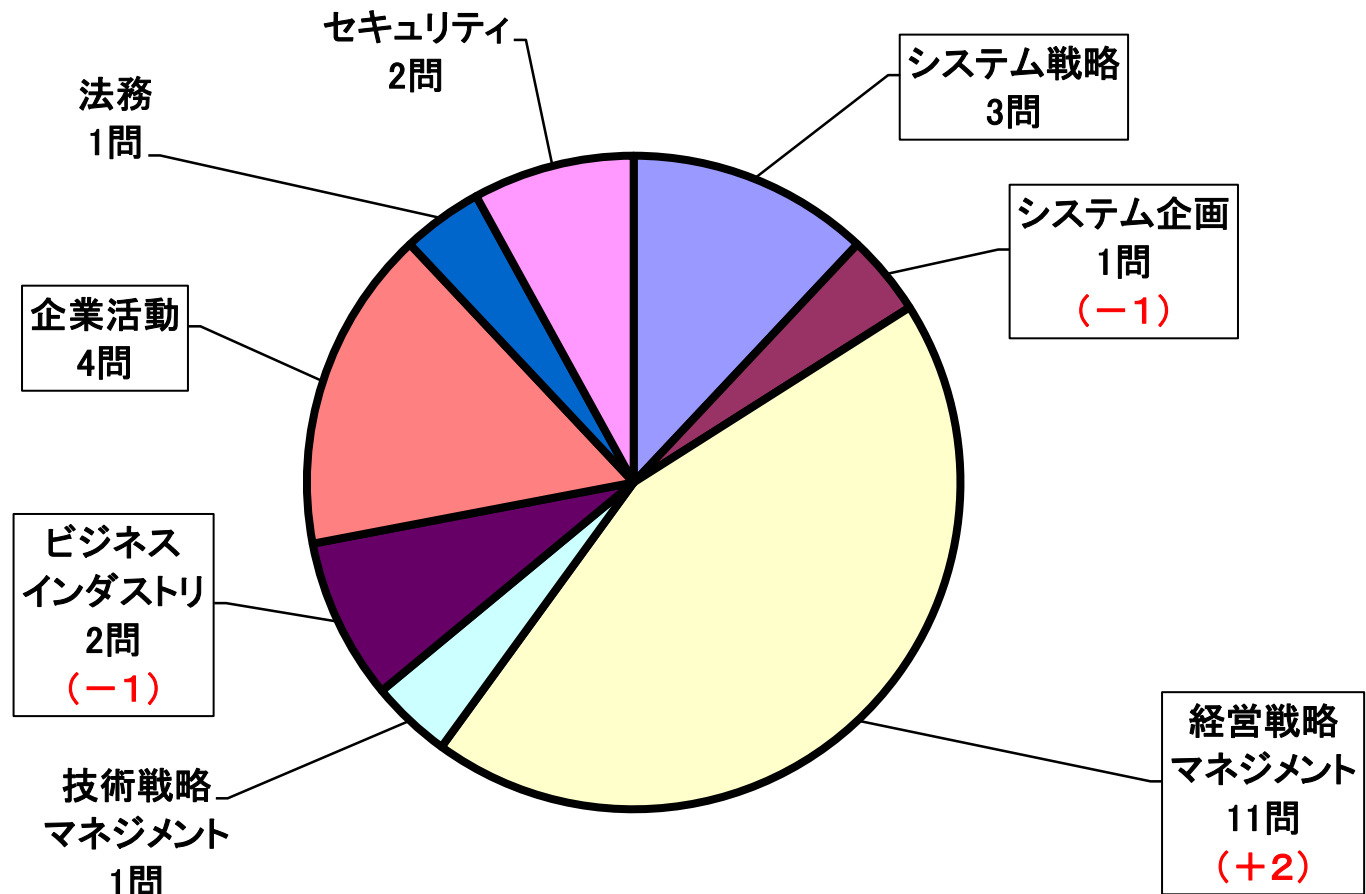


令和元年度 秋期試験 ITストラテジスト(ST) 出題傾向分析

TAC株式会社

ST 午前Ⅱ 分野別出題数

- 分野別出題数は変化するが、重点分野から毎回21問。



ST 午前Ⅱ 特徴と難易度

- ・ 午前Ⅱの特徴
 - 戦略やマーケティングの**難しい用語のオンパレード**
⇒過去問が繰り返し出題されているので、対応可能
 - **過去問題17問(68%)**, うちSTから10問(H26～H29年)
 - 新規テーマの難易度が高い

<新規テーマ>

オープンデータバイデザイン, ターゲットリターン価格設定,
OKR(Objectives and Key Results), DMAICの活動フェーズ,
スマートコントラクト, コンバージョン率と顧客獲得単価,
ベイズ統計 など

⇒ 全体的な難易度は**標準的**

ST 午後 I 特徴と難易度

- ・ 午後 I 全体
 - － 今を反映した新しい技術を積極的に取り入れた事例
デジタルトランスフォーメーション, 仮想ロボット, 自動化,
アジャイル型開発, センサ技術, AI, ビッグデータ
 - ・ AIの活用はもはや当たり前！
 - － 「情報システム化構想」「事業戦略」「業務改革」
 - ・ ITストラテジストに求められる業務内容は変化なし
 - － 知識的な難易度はそれほど高くない
 - ・ 問題文を読めば理解できる内容
- ⇒ 午後 I 全体としては標準的

ST 午後 I 各問題の特徴と難易度(1)

- ・ 問1 化学品メーカーにおける
デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進
 - － 輸出入業務にデジタル技術を採用
 - ・ 仮想ロボットで書類作成を自動化, アジャイル型開発
 - － STらしい業務の流れの問題
 - ・ 現状の課題→DXの企画→実証実験→本格導入計画
⇒ 標準的
- ・ 問2 保険会社の新事業の企画
 - － センサ技術, AI技術, ビッグデータの活用
 - ・ 健康データの収集, 健康指導, 新商品開発
 - － 取組みの“狙い”が多く問われる
 - ・ 解答を絞りにくいが, 6割の得点は可能
⇒ 標準的

ST 午後 I 各問題の特徴と難易度(2)

- ・ 問3 大学受験向け予備校の合併に伴うITを活用したビジネスモデルの見直し
 - 集団型講座のF社と、個別指導型講座のG社の統合
 - 最新技術の採用
 - ・ ビッグデータでデータ蓄積, AIで傾向分析, Web会議, ALS:アダプティブラーニング(適応学習)システム
 - 問題文の記述がどの設問のヒントか悩む ⇒ 標準的
- ・ 問4 自動運転技術を用いた海底探査システム
 - 空飛ぶクルマ, 海底探査など, 夢のある題材
 - ・ センサ技術, AI, 水中音響通信技術, 特許使用契約
 - 解きやすいが, 選択するのに勇気がいるテーマ
 - ・ 経験者はほとんどいないだろう ⇒ 難しい

ST 午後Ⅱ 特徴と難易度

- ・ 午後Ⅱ 全体
 - － ITストラテジストらしい上流視点のテーマ
 - ・ 事業課題の解決, ビジネスモデル策定, 調達戦略
 - － 3問とも, **新技術の採用を前提**としている
 - ・ デジタル技術, AI, AR機器, IoT, スマートフォン
 - － “**関係者への説明**”の役割を重視 ←STでは頻出！
 - ・ 問1 「あなたが**事業部門**に説明した内容は何か」
 - ・ 問2 「策定したビジネスモデルと施策を**経営層**に説明」
 - ・ 問3 「**システムアーキテクト**などに協力を求め」
「**関連部門**と吟味して」

⇒ 午後Ⅱ 全体としては**やや難しめ**

ST 午後Ⅱ 各問題の特徴と難易度(1)

- ・ 問1 デジタル技術を活用した業務プロセスによる事業課題の解決について
 - － テーマはデジタルトランスフォーメーション(DX)
 - ・ 例として, AI, 音声認識装置, AR(拡張現実), IoT
 - － 機能, 性能, 信頼性の面で先行事例の調査や実証実験
 - － 最新技術を使って課題解決 ←STらしい問題 ⇒ 標準的
- ・ 問2 ITを活用したビジネスモデル策定の支援について
 - － 問1と同様に, 最新技術を採り入れて課題を解決
 - ・ 異なるのは新たなビジネスモデルの策定である点
 - ・ 問1よりも対象が大きい(事業そのもののあり方の提案)
 - － 論述すべき項目が多い→全ての確に書けるか?
⇒ 難しい

ST 午後Ⅱ 各問題の特徴と難易度(2)

- ・ 問3 組込みシステムの製品企画における調達戦略について
 - 自社開発技術と外部調達との棲み分け
 - 新技術を用いた製品を外部調達, 専門家を外部から要請
 - 論述に含めるべき項目や観点が多い
 - ・ 設問イ: 自社保有技術の内容, 調達先の選定方針, 専門家要請の検討, 外部調達に伴うリスクと対応
 - ・ 設問ウ: 方針の妥当性, リスク対応の評価, 外部調達の副次効果, 将来の展望
 - 書くべき内容が多いが, 要求事項に一つずつ答えていけばある程度の分量の論述になる

⇒ 標準的

ST 今後の対策（午前Ⅱ，午後Ⅰ）

・ 午前Ⅱ

- － 難しい経営用語が多く出るが，過去問で攻略可能！
 - ・ 繰返し出題されているので，過去問演習で6割以上取れる
 - ・ 2回前～5回前から再出題されやすい
 - ・ 過去問を解いてみて，理解不足の場合にネットで調べたり，テキストに戻って確認するのが効率的
 - ・ IoTなど最新技術とセキュリティに着目（シラバス改訂）

・ 午後Ⅰ（※音声では午後Ⅱと言っておりますが正しくは午後Ⅰの説明となります）

- － 題材となる業務の知識があると心強いが，なくても解ける
- － ヒントは問題文の中にある（自分で施策を考える必要なし）
 - ・ 問題文を的確に読み取り，整理する力をつけよう
 - ・ 各設問と問題文との対応を確認しながら解く演習を

ST 今後の対策（午後Ⅱ）

- ・ 午後Ⅱ
 - － STの場合、**論述ネタの準備**は必須
 - ・ 試験中に論述ネタを考えようとしても浮かばない！
 - ・ **典型的な施策のネタを複数用意**しておく
 - 事業戦略や改革の目的と結びつけることが大事
 - ・ **最新技術**をウォッチしてタイムリーに採り入れよう
 - STは、新たな施策を提案する役割の人**
 - 新たな施策には、最新技術を採用するのが当たり前**
 - － 論述ネタに困ったら、**午後Ⅰ問題を題材に論述設計書**を作ってみよう
 - ・ 事業戦略は？ 現状の課題は？ 新たなIT施策は？
 - ・・・問題中に全部書いてあります

ご清聴ありがとうございました

